

施工 Q-03

増し打ちコンクリート 同時打ち

デッキ合成スラブでモルタル仕上げの場合、工程上モルタル部分も含めて一度にコンクリートを打設する場合や増打ちコンクリートを同時に打設する場合の施工上の留意事項を教えてください。

施工 A-03

1) 仕上げモルタルの厚さが 20~30mm 程度であればこれをコンクリートに置きかえ、直仕上げとしても構造及び耐火上問題はありません。その場合の留意事項は次の通りです。

(1) 施工時の検討 (デッキプレートの検討)

打設時のコンクリート量が設計スラブ厚さよりも厚くなりますので、デッキプレートの応力、たわみをチェックし、施工時のデッキプレートの安全性を確認してください。

(2) 溶接金網の位置

コンクリート仕上面からのかぶりを 30mm としてください。従ってモルタル仕上の場合と溶接金網の高さが異なります。(図 1 参照)

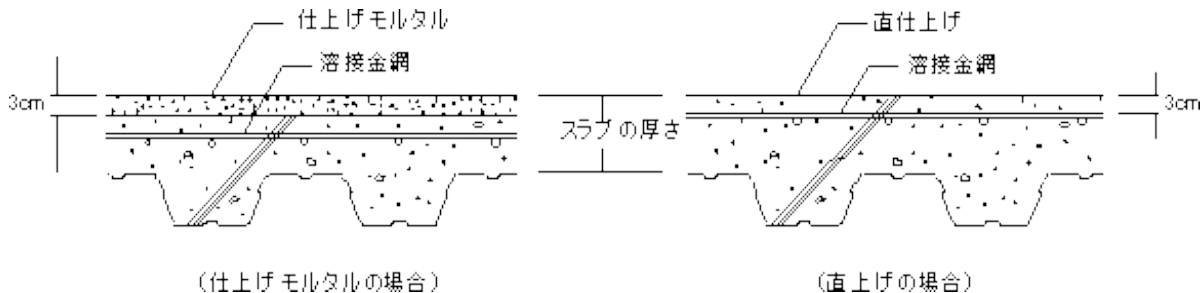


図 1 モルタル仕上げの場合

(3) 溶接金網のサイズ

デッキ合成スラブの配筋規定からデッキプレート山上コンクリートの断面積の 0.2% 以上の配筋量が必要となります。従って、モルタル部分を含めたスラブ厚さの断面積に対して配筋量が算定されます。例えば、φ6-150x150 を φ6-100x100 にサイズアップする場合があります。

2) 増打ちコンクリートは、a) 単純に増打ちする仕様の場合、b) 水勾配を採るときに台形状断面床スラブになる場合 (図 2)、あるいは c) ピットを設ける仕様 (図 3) や O A 床を設ける仕様 (図 4) などの段差床となる場合などがあります。これら増打ちコンクリートを設計床スラブ厚さのコンクリートと同時に打設施工する場合の留意点は、上項の (1) ~ (3) となります。

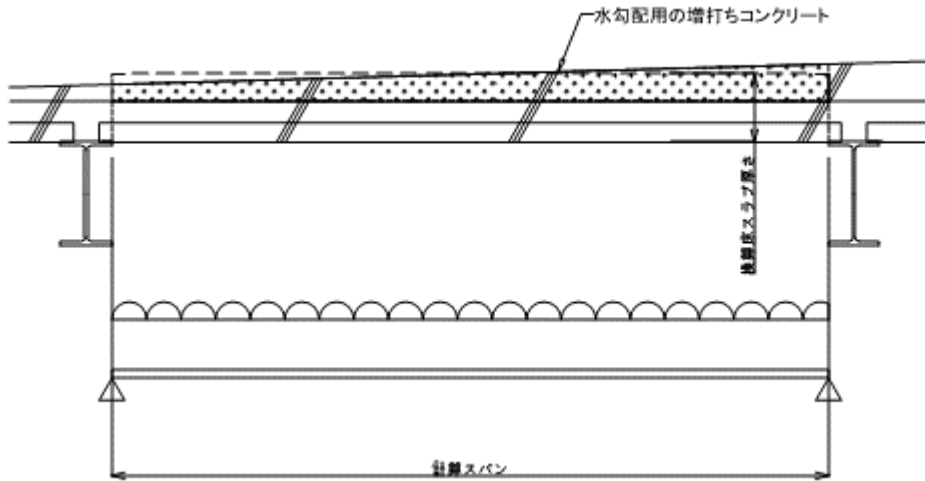


図2 水勾配用の増打ちコンクリート

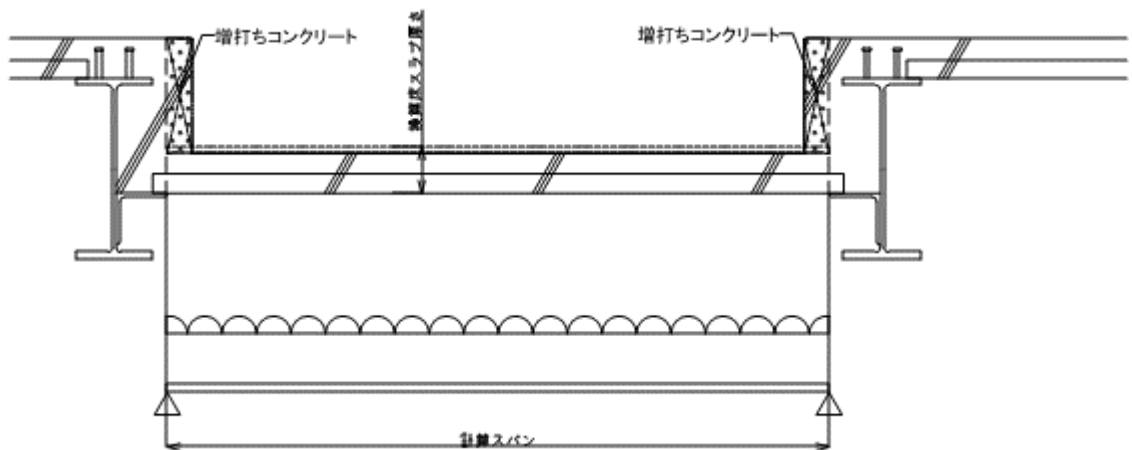


図3 ピット段差部の増打ちコンクリート

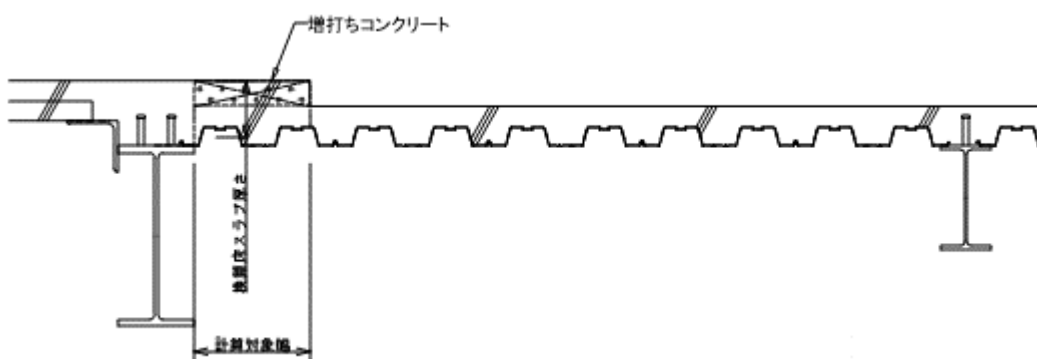


図4 ピット段差部の増打ちコンクリート

なお、本件のような変更は、現場独断で行わず、監理者と打合せ了解の上実施してください。